

超硬再生、社内処理拡大へ

富士ダイス、スキーム構築

富士ダイスは、超硬
工具リサイクルの社内
処理の工程拡大に注力
する。顧客の使用済み

超硬工具を回収し、こ
れを破砕。最終的に原
料の炭化タンクステン

クル原料として使用す
る。現在は工程の一部
を委託加工している
が、自社で対応できる

工程を増やしたい考え
だ。津田雅章社長は「調
達ソースの複線化を進
めている」と強調。リ

サイクル原料の活用に
加え、購買先のエリア
も広げているという。

回収した超硬スクラ
ップは粉末原料に戻す
ため破砕する。非常に

硬いため、高効率な破
砕技術の確立に取り組
む。最終的な炭化タン

クステン粉末までのコ
ンバージョン（変換）
は委託加工を続ける考

えだが、「初期のタンク

ステン原料までは自社
で行いたい」（津田社
長）と語る。

超硬工具原料のタン
クステンは、昨年2月
に主産国の中国が輸出

規制を強化した。相場
が高騰し、現在も高止
まっている。

超硬工具の安定供給
のため、富士ダイスも
昨年よりリサイクル事

業を立ち上げた。日本

機械工具工業会が今年
6月に改定した超硬工
具スクラップのリサイ

クルに関するガイドラ
インには、同社も同工
業会認定のリサイクル

窓口業者にも名を連ね
ている。

まずはリサイクル原
料比率10%を目標とす
る。今期はリサイクル

スキームの構築に注力
する方針。